

平成25年度 金沢国際交流ラウンジ窓口スタッフ募集

平成25年度、金沢国際交流ラウンジ窓口相談コーナーの有償スタッフを募集します。

- ◆勤務期間:平成25年4月～26年3月(更新あり)
- ◆業務内容:在住外国人市民に対する情報提供・相談対応 及びラウンジ業務に関する事務
- ◆応募条件:日本人及び在住外国人の方
 - ・国際交流・多文化共生に興味がありボランティア精神のある方
 - ・パソコン操作ができる方(ワード中級、エクセル表計算、メール送受信、HP更新)
 - ・英語、もしくは他言語で簡単な日常会話ができる方(日本人スタッフ)
 - 日本語で簡単な日常会話ができる方(外国人スタッフ)
- ◆勤務体制:午前・午後の2交代シフト制。(1シフト4時間15分)

- ◆応募方法と提出
 - 募集期間 :2013年2月12日(火)～21日(金)
 - 提出書類:履歴書(所定の履歴書をラウンジ窓口まで取りにきてください)
 - 応募締切:2013年2月21日 金曜日(当日消印有効)
 - 応募先 :金沢国際交流ラウンジ窓口 ☎ 045-786-0531

金沢図書館「いろいろな国のことばでおはなし会」に参加

11月4日、金沢図書館から多文化理解の一環として「お話し読み聞かせ会」を開くにあたり、ラウンジからの読み手として、宋継臣さん、(中国)、岩本アナリアさん(メキシコ)が参加した。当日は、韓国の方(2名)も読み手となり参加した。いろいろな国の民話絵本が集められた会場で、子どもから大人までの参加者の80名の前で、宋さん、(中国民話)、岩本さん(ボリビアとスペインの話)が中国語ならびにスペイン語で、参加者に響くそれぞれの個性ある口調で語っていた。これには、かもめ教室の学習者も聞き手として参加した。楽しいイベントだった。



宋さんの感想

子どもの頃には『老鼠娶新娘』(ねずみのおよめいり)と言う物語をおばあさんから聞いたことがあります。今回はこの絵本を中国語で読んで、子どもたちに中国語の発音の特徴などを聞いてもらいました。おなじ物語は日中両国でたくさん共有していることが分かりました。

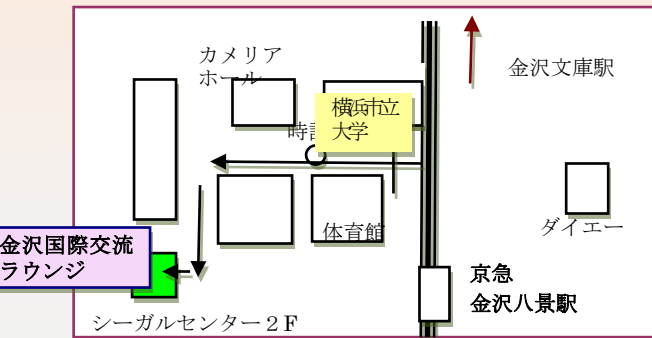


岩本さんの感想

文化、生活の違いや絵を楽しみながら知らず知らずの内にスペイン語の言葉と絵本に興味を持ってくれました。子ども達は熱心に聞いていました。そして私の問いかけにも手を上げて答えてくれました。絵本を通して外国の文化を伝えることができてうれしかったです。

★ラウンジ窓口のご案内★

《開館時間》日・火・水・木・金・土 9:00～17:30
月、祝日、市立大学指定休 2月22日～26日まで
市立大学入試のため休館
〒236-0027「横浜市金沢区瀬戸 22-2」
横浜市立大学内 シーガルセンター2階



☎ 045-786-0531 Fax 045-786-0532

▶外国語で相談

毎週火曜日 13:00～17:00 スペイン語
los Martes por la tarde (13:00～17:00)
Consultas en español
毎週水曜日 9:00～13:00 中国語
毎星期三 9:00～13:00 中国語

▶【日本語教室】

場所:金沢国際交流ラウンジ国際交流室1
日曜日 火曜日 木曜日 土曜日 10:00～11:30

▶【かもめ教室】

土曜日 日曜日 10:00-11:30 国際交流室2
火曜日 15:30-19:30 オフィスかなざわ
金曜日 15:00-16:30 並木北コミュニティハウス
かもめ教室専用 ☎045-786-0534



No. 25
2013年1月20日発行

発行 金沢国際交流ラウンジボランティア会
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2 横浜市立大学シーガルセンター2F
TEL:045-786-0531 / FAX:045-786-0532
URL <http://www.kanazawalounge.org/>

多様な異文化とその背景を知る”パネルディスカッション”を実施しました

平成24年11月25日(日)、横浜市立大学いちょうの館にて、恒例の「パネルディスカッション」を実施しました。今回はサウジアラビアとロシアという普段あまり接する機会の少ない国の方をパネリストにお迎えしました。両国とは石油や木材・魚介類の輸入で日本と密接な関係にありながら、その国民性や文化はあまり知られていませんでした。今回のディスカッションでは活発な意見が交わされ、異文化交流が進み、より親近感が増したように感じました。

サウジアラビア

バンタン・フラート氏
2007年来日。東京工業大学国際工学科。サウジアラビア王国ナショナルデイのサポートを担当。アラビア語の先生としても活躍中。



Profile

ロシア・サンクトペテルブルク

ヴォルコワ・キタイナ・アナスタシア氏
2年前に来日。インターナショナルスクールオブビジネス専門学校在学中。好きな日本の文化は「文楽」。



Profile

サウジアラビアは多民族文化の国。マレーシア、インドネシアなどの人々が多い。イスラムの教えるは全ての人々がアラーの前では平等。差別する人は非難される。皆が助け合い、平等に暮らしている。日本と同じにおもてなしの文化があり、誰にでも挨拶し、目上の人を尊敬する。

国民性

サンクトペテルブルクはかつては首都だったこともある綺麗な都市。5月半ばから7月半ばは白夜になる。ロシアも多民族国家。日本と似ているのは年上の人を尊敬する点。日本と違う点は、部屋に入るとき、女性が先に入る、電車で女性が立っていたら男性は座らない点。



アンケートより

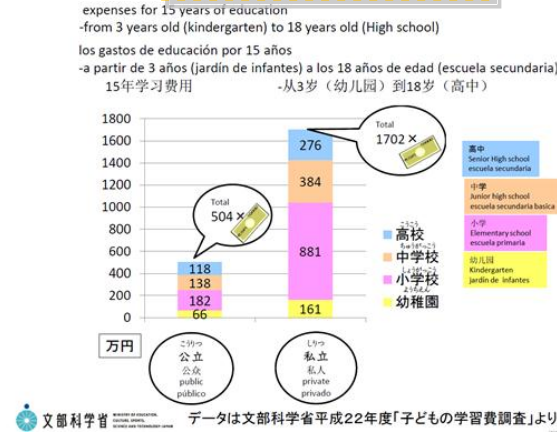
- ✓ 国際理解、国際交流に興味を持っていらっしゃった方が出席しているので、質問等もすごく興味深かった。
- ✓ 国際化の時代と言っても日本でしか生活したことがなく情報もあまりありませんでしたが、今回のパネルディスカッションを通してサウジアラビアとロシアの文化が多少わかった。
- ✓ それぞれの国の文化や考え方が分かって面白かった。二人とも日本語が堪能で分かりやすかった。
- ✓ 講師のお二人が正直なご意見を述べられてよかったです。
- ✓ 多民族国家である良さを活かして生活していく姿がよくわかった。
- ✓ 大変面白かった。興味を持って聞いた。異文化共生について今後も知りたい。
- ✓ とても良い企画だった。また来たいと思った。ありがとうございました。

「日本の教育制度・高校入学・しごと」

11月10日、梅田玲子先生（神奈川県国際言語文化アカデミア）を迎え、外国人の方に人生、教育、仕事に関することをわかりやすくスライドで説明していただきました。

- ◆結婚して子どもができた場合の生活費はいくらかかるか
 - ◆仕事をする事の大切さ
 - ◆仕事に就くまでの学校教育の大切さ
- また、平成25年度から制度が変わる公立高校入学者選抜の内容と検査日程などの説明もありました。

一般的な教育費用は？



「公立高校入学のためのガイドブック」p.1



神奈川県高校入試の説明

特別

- 1. 神奈川県立高校に入学する場合は、日本国籍を有する者であることを証明する必要がある。
- 2. 入国後3年以上日本に滞在し、日本語能力を証明する必要がある。
- 3. 入国後3年以上日本に滞在し、日本語能力を証明する必要がある。

参加者は、外国人の保護者、高校受験前の中学生、小学生など25名。来日したばかりの方もいて、日本のくらしが少しわかったようでした。

最後に、大学1年生の方から体験談があり、「あきらめずに勉強することが大事」と今から中学、高校にあがる皆さんの励みになりました。

家族に感謝！しています



将来やりたいことはなにか???

人生に必要なものは？

- ◆参加者外国人からのセミナーを受けた感想です。
- ・日本の学校のこと、特に中学校の成績が高校入試につながることをわかった。
- ・高校、大学に行くことは費用がかかることをわかった。
- ・大学1年生、ペルー人の体験談から、母が家庭でしっかり子どもを見守ることが大事とわかった。
- ・このような情報はとてもうれしい。
- ・高校入試に向けてがんばりたいと思った（フィリピン人、ベトナム人）



神奈川県に住む日本語を母語としない方へのご案内（神奈川県教育委員会+ME ネット提供） 「25年度から公立高校入学者選抜制度が変わります」

神奈川県 2013年入学者選抜「公立高校入学のためのガイドブック」（日本語+各10言語版）を参考にしてください。

■ガイドブックは、<http://tabunka.justhpb.jp> を見てください。

高校の種類、受験までの日程、願書の書き方、入学したら必要なこと、及び困った時のための問い合わせや相談するための電話番号やメールアドレスも書いてあります。

*これから先、高校を受ける方にも役立つ情報です。

■問い合わせ先 神奈川県高校企画課 045-210-8084・ME ネット 050-1512-0783

10言語

Español ・ Português ・
中文 ・ 한국 ・ Tagalog
English ・ ភាសាខ្មែរ ・ Cambodia
Tiếng Việt ・ Laos

日本語部

日本語ボランティア ブラッシュアップ研修 テーマ「学習者の日本語能力を伸ばすために必要なことは何か」

日本語ボランティアとしての指導力、資質の向上を図るため、10月下旬から12月初旬にかけて、4回のシリーズでブラッシュアップ研修会を開催しました。

「学習者の日本語能力を伸ばすために必要なことは何か」というテーマで、「多様な学習者に合う教材」、「レベル差があってもできる日本語学習の方法」等について学びました。従来型の講義形式ではなく、グループワークを中心とした「参加型」の講座でした。

講師は、国際日本語普及協会講師の品田潤子先生、東京海洋大学教授の池田玲子先生のお二人で、それぞれ2回ずつご担当して頂きました。大変楽しく、熱意あふれた講義でした。

受講者は30名、また、横浜市日本語学習アドバイザーの矢部まゆみ先生、金沢区役所関係者にもご出席いただき、共に学び合う有意義な研修の機会を持つことができました。本講座で学んだことを日々の日本語支援にいかしていくのがこれからの課題であると思います。



- ★受講者アンケートより
- ・丁寧な資料と講義、そしてワークショップ型の研修は良かった。
 - ・サバイバルに必要な日本語を徹底して指導すべきという指摘は目からうろこだった。
 - ・学習者は日本語を学びに来ているのではなく、日本で生活するために必要なことを学びたいと思っている。
 - ・学習者とボランティア間の信頼関係はとても大事なことです。
 - ・ピアラーニング（協働対話型学習）の楽しさは良く理解できたが、現在の教室活動に適用するには工夫が必要。

情報広報部

研修「適切な翻訳と広報」について

12月1日（土）、神奈川県立国際言語文化アカデミアからアスティゲタ先生を迎え、部内研修会を開催しました。翻訳をするとき、まず日本語の原文をよく理解すること、意味が伝わるように訳す、など注意すべき点をわかりやすく解説してくださいました。

- ! Point 「上履き」て何？
- 母国にはない習慣はことばだけでは想像できない。「上履き」は「学校の中で履く靴、白色、写真入り」など外国人に理解できるように原文の日本語を補う。
- ! Point 最後はネイティブチェックが必要
- 対象の外国人が文を読んでわからなければ意味がない
- 後半はグループで日本語文をまとめる「翻訳前の作業」をし、発表しました。
- さらに、翻訳する時のインターネット上の翻訳サイトなども教えていただき
- 今後の翻訳や外国人に接するときにとっても役立つ研修でした。
- （情報広報部・日本語部・子ども学習支援部員参加）

